

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1471500304
法人名	社会福祉法人 誠幸会
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原
訪問調査日	平成26年8月18日
評価確定日	平成26年11月28日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471500304	事業の開始年月日	平成15年11月1日	
		指定年月日	平成21年11月1日	
法人名	社会福祉法人 誠幸会			
事業所名	グループホーム泉の郷 仙石原			
所在地	(250-0631) 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原1285-368			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年7月29日	評価結果 市町村受理日	平成27年1月9日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あたり前の支援を正しく行う。少人数での生活の機動力を活かし、入居者様にとって「かゆい所に手がとどく」支援を進めています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年8月18日	評価機関 評価決定日	平成26年11月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①泉の郷 仙石原の経営母体は、社会福祉法人「誠幸会」です。「誠幸会」は各種福祉施設(特養、ケアハウス、デイサービス、グループホーム、障がい者グループホーム等)を展開し、福祉事業の大きなネットワークを持つ法人です。グループ内のPCネットワーク、研修体制などについても共通に取り組める強みを持っています。PCネットワークでは、共通のソフトを活用し、情報の一体化が図られ、個人記録についてもパソコンで保存しています。毎月末そのサマリーを出力して、ご家族に送付しており、ご家族からは本人の状況がわかりやすいと好評です。今年度の理事長方針は、昨年の方針「好奇心、向上心」を現実のものとするべく「実行力と実現力」とし、全体会議には全員参加し、理事長方針の認識・共有化を図りました。昨年度交代した管理者はこの方針を展開し、このホームの運営方針を「かゆいところに手が届くケア」とし、具体的な展開として 1.入居者様の「安心・安全」な生活の確保、2.職員の質・知識の向上、3.安定した運営、4.経費削減とリサイクルに細分化して展開を図っています。本部の要請で職員の出張援助にも応じられるよう強化を図っています。

②従来続けている「メリハリ、運動、オムツ排除」のモットーは不変で、利用者に対し全職員が同じ目線で接すること、全職員が連携することで、利用者に対して目配り、気配りに努めています。「皆を同じようにまとめない」、「表情をよく見る」を合言葉に、利用者の表情を見逃さないようケアに努めています。特に介護計画書の様式についてはケアマネジャーが集まって検討し、特養の前段階の意味を持つグループホームとしては同じ方式で分かり易い情報を提供出来るよう統一を図り、現在、各グループホームでの展開を図っています。職員の教育については、本部で教育計画があり、同じテーマで月4回研修が生まれ、出席可能な日程を選んで参加出来る仕組みとなっており、1回は必ず職員が参加しています。講師を招ねき全職種が参加可能な研修も企画・実施され、代表が受講し、帰着後ホーム内で伝達研修を実施しています。昨年、箱根町福祉ネットワークが出来、他福祉事業者との交流や勉強会が始まり、参加しています。ホームの会議室、和室等の利用許可を本部から取り付けたこともあり、勉強会等での活用を提案して行く予定にしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム泉の郷仙石原
ユニット名	グループホーム泉の郷仙石原

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の一言一言の意味を解釈・理解していただき、法人の運営理念をかかげ、常に目に付くようにし、職員一人ひとりが意識を持って実践できる環境作りを心がけています。	法人の運営理念、年度方針を受け、事業所内に掲げ、常に目に付くようにし、職員一人ひとりが意識を持って実践するようにしています。新管理者は事業所の方針を「かゆいところに手が届くケア」とし、具体的な展開として 1.入居者の「安心・安全」な生活の確保、2.職員の質・知識の向上、3.安定した運営、4.経費削減とリサイクルに細分化して展開を図っています。本部の要請で職員の出張援助にも応じられるよう強化を図っています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小塚地区の常会、総会行事には積極的に参加させて頂いております。 事業所からは、地域皆様に泉の郷仙石原で行われる、納涼祭や運営推進鍵に参加をいただいています。	小塚地区の常会、総会行事には積極的に参加しています。今年度はホームの納涼祭と併せてバーベキュー大会を実施しましたが、8月は行楽シーズンと重なる為、今後は6月開催を検討しています。納涼祭には真鶴の日舞のボランティアの方々に来てもらいました。今後は、小塚組の活動縮小に伴い、地域住民の集まりにも活動範囲を広げて行きたいと考えています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小塚地区の常会・総会、枝打ち・道路清掃等行事にも参加している。また入居者様の散歩コースにはベンチを置かせて頂いています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の組合長を含めご家族代表、町役場の福祉担当者との運営の報告、今後の運営等に関しての意見をいただき、向上に努めている。	運営推進会議は地域の組合長を含め、家族代表、利用者（2名）、箱根町役場の福祉の担当者、地域包括支援センター、ホーム関係者の構成で行っています。事業所の現状報告、今後の運営等に関して意見を頂き、事業所の向上に繋げています。今年度は8月の納涼祭に合わせて実施しましたが、箱根の繁忙期であり参加が少なかった為、来年度は開催時期を含めて検討して行きたいと考えています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	その時々々の状況報告や意見をお伺いしたり、箱根町地域密着型では初めてとなる、短期共同生活介護についての議論を進めてきました。	箱根町担当者とは、事業所の状況報告や意見交換、入所者の紹介等も含め、連携を図っています。また、今年度はグループホームのショートステイを検討しており、その認可を含めた町役場との会議の場を設ける等、連携を密に取っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当然ながら、地域の皆様のご理解やご協力により、玄関の施錠もなく、全面的に身体拘束のないケアに取り組んでおります。	身体拘束については、社) 誠幸会は特に力を入れており、職員は弊害を正しく理解し、介護にあたるよう指導を受けて実践しています。地域の方の理解や協力もあり、玄関、ユニットの施錠は行わず、全面的に見守り体制を取り、身体拘束の無いケアに取り組んでいます。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や内部研修、法人内全体出席での外部講演等、話し合いや勉強会で普段のケアの中からも、注意し合いながらグレーゾーンも含め虐待行為を防止している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	泉の郷仙石原には2名に成年後見人様がついてくださっており、常に話し合いを持っています。制度についても把握できるよう勉強をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み上げ、質問等には、確実なご返事が出来るよう、自身も把握に努めています。また変更時は文書にて説明、同意を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設け、第三者委員会も設置し随時受け付けている。又利用者から意見要望なども、アンケートを基に対応しています。	泉の郷グループでは情報の一元化が図られており、毎日の業務内容は即時に本部で把握出来る体制作りが整っています。また、苦情相談は事業所だけでなく、本部にも窓口を設けられ、第三者委員会も設置しています。施設内に本部の連絡先を提示して、誰もが連絡できるようにしています。また、家族からの要望等は、運営推進会議時、来訪時、ホーム行事時に何うようにしています。ご家族への連絡は毎月、日報を1か月分コピーし、メモ書きも添えてお知らせしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや定期的な職員会議等で意見交換しながら反映している。また年一回、法人上層部との面談の希望を募り実施している。	ミーティングや定期的な職員会議等で職員間で意見交換を行い、運営に反映するよう努めています。また年一回、法人上層部との面談の制度もありますが、希望のある場合には都度実施出来る体制にあります。意見等については、云い易い体制を構築し、情報の伝達等についてもスムーズな状況にあります。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が目標を持ち、長く安心して仕事に着ける環境を整えています。おかげさまで仙石原は職員9名中8名は勤続3年以上になります。また今年度より退職金制度もできました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対し、法人も積極的に研修や資格取得を進めています。また費用の負担も法人負担を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	昨年より、箱根町福祉ネットワークができ、定期的に他事業者との情報交換や勉強会に出席させて頂き、共に向上を目指しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	温もりのある話しかけ等で、関わる時間を多く取ったり、利用者のお話を真剣に聴くことでりよしゃ一人ひとりの状況や困りごとを把握して、寄り添い、不安のない生活づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等でのお話やご要望等もお伺いしながら、家族が抱えている困りごとや不安を解消して頂き、信頼関係づくりに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴を伺いながら新たな環境に戸惑いなく、共に安心して生活が出来る様に見守る姿勢や本来のその人らしさが発揮できるように個人が持っている可能性を引き出す生活づくりの支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「いま、ここで」共にすごし、普通の生活を目指す道のりに少しだけサポートをして、本人の持っている生活技術を活用することで安心できる場所を築くように努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の生活記録を送付し、随時生活の様子がわかるようにしていることや電話や面会時にもきめ細やかに話や相談事にも耳を傾けております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントのご案内をさせて頂いたり、遠方でなかなか来ていただけない方には、あらためて連絡したり、声かけをさせて頂いております。	イベントのご案内をご家族に送付しています。遠方で面会が困難な場合は、改めて連絡したり、声かけをして、出来るだけ参加して頂けるように案内しています。地域の仙石地区の催し物に出かけ知人に逢ったり、地域住民の方々と付き合いも大切にし、これまでの関係や、新たな関係づくりが出来るよう支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにも定席を設け、利用者間で自発的に交流を持ち、時には職員が橋渡しをしながら支え合えるように支援をしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移動されても、定期的に様子を伺ったり、時には電話で連絡をさせて頂きお話をさせて頂きながら、これまでの関係を続けさせて頂いております。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ一人ひとりの生活歴を家族よりお伺いして、その人に合った関わりと居心地のいい居室の環境を整えることで、本人の不安を払拭している。	なるべく一人ひとりの生活歴を知ることに努め、各々の生活歴から浮かんでくる希望を把握し、その人に合った関わりが出来るように努めています。個別ケアについては、今年度のホームの運営方針を「かゆいところに手が届くケア」とし、1日の記録を毎日早番と遅番が記載していましたが、今年度から日勤、夜勤を含めて4人で記録することにより、複数の職員からの視点で、本人がやってほしいと見えてくるようになりました。築いている信頼関係でも把握できない面については、家族の情報を加味するようにしています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から今までの暮らし方（趣味や得意とする事等）をお伺いして、課題分析しながら、把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の出来る事ややりたい事を取り入れながら、出来ることへの拡大を図り、関わりの中の生活づくりに努め、ケアプランにも繁栄しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランのチェック表やケアカンファレンス記録表等で状況変化に応じた個別性に配慮した目標提示がされているか、話し合いプランの実施状況の再確認をしている。	居室担当とケアマネが中心となり、ケアカンファレンス等で、ケアプランの1か月の事業所独自の日常生活動作チェック表に基づき、課題を話し合いながらケアプランに取り入れ、職員全員が把握するように努めています。今回の介護計画書統一の根幹は、このチェック表の改定が主で、記載項目を見直し、誰でも項目を落とさず記載できる工夫が為されています。先の1日の記録のサマリーとこの新チェック表（アセスメントシート）により、「かゆいところに手が届くケア」の実現を図って行きます。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	再アセスメントやケアカンファレンスしながら状況変化に対応、見直しをしている。またケアプランのチェック表でも介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題や大きな状況変化が起きた時には、会議を開催して、家族の意向や状況等話し合い、個別性に配慮した、きめ細やかな対応が出来る様に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安心、安全で豊かな暮らしが出来る様に、持っている生活技術を活用しながら、個人の持つ可能性を引き出す生活づくりを支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医院にかかりつけ医となっただいております。2週間に1回～1ヶ月に1回の往診を各入居者は受けています。また今年度より、希望者には訪問歯科診療及び、口腔ケアを受けています。	かかりつけ医は、近隣の内科医にお願いしています。医師には28日（薬処方の期限）の間に9回（1日1人のみ診察）の往診をしてもらい、各入居者は受診しています。1日1人の診察なので月9日間は先生の訪問があり、利用者の安心につながっています。今年度より、希望者には訪問歯科診療及び、口腔ケアの受け入れ体制を整え、利用が可能となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本部訪問看護ステーションより週に1回来所されています。その都度相談、指導、処置、していただき、看護師がいないときでも、協力医療機関や電話等で相談させていただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、定期的に病院に行き医師や看護師と情報交換しております。個人情報保護の面では、開示を拒む病院もありますが、各病院のソーシャルワーカーとの連携も進めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想できた時点で、ご家族様や協力医などと十分に話し合いを持ち、施設で出来る事、また違う選択も含め、入居者様、ご家族様の希望がかなうよう支援しています。	重度化した場合や終末期のあり方について、その都度、かかりつけ医と話し合い、ご家族とも話し合いの場を設けています。医療連携については本部の看護師が定期的に来訪し、健康管理を行なっていますが、医療の体制が無い場合、特養や病院等への転出も視野に入れて対応しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内部でも救急隊員の協力を得て、定期的に応急手当や初期対応の訓練を実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に、消防や防災事業者の指導の下、総合防災訓練を行っています。また施設の備蓄の他に、自治会の防災倉庫にも備蓄をお願いしています。	災害対策については、定期的に消防や防災事業者の指導の下に、総合防災訓練を行っています。また、地区の小塚組員に災害時の協力を依頼し、町内会の小塚組からは備蓄等の具体的協力の約束を頂いており（組全体用として3日分以上の備蓄）、ホームとしての備蓄も持っています。食料では米、野菜等の在庫は余分に確保しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの取りまく状況や行動をよく理解し、今その人に合った言葉かけをするように努めている。	一人ひとりをよく理解し、きめ細やかな対応に努め、本人のプライバシーを損ねないよう、「今」その人に合った言葉かけをするように努めています。利用者の生活歴を少しでも多く把握して、一人ひとりの取りまく状況、行動を理解しながら個別ケアに努めています。居室担当を決めており、居室には利用者名の他に担当職員の名前も小さく明記し、担当を明確にしています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりその人に合ったペースで生活してもらい、好きな事の情報収集し、話題に活用している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その時の状態や様子を見ながら、出来る限り散歩や入浴等、その人が望む事への支援に努め、一人ひとりが過ごすペースを大切にしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて一人ひとりの希望に合った服装をして頂き、清潔保持の支援をさせて頂いています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた食材、料理を取り入れ、準備、食事の片付け等職員と一緒にいる。入居者の参加できる前処理なども手伝って頂いています。また、玄関前や交流施設食堂を利用し、普段と違う食事の雰囲気作りをしています。	食事は利用者の要望に沿って利用者と一緒にいるのが法人の方針であり、職員が半月づつ担当とし、利用者と一緒にメニューを決めて自分で食事を作っています。また、入居者の参加できる料理は一緒に作っています。本部の栄養士に栄養バランスを確認してもらい、季節に合わせた食材を取り入れた食事を提供しています。準備、食事の片付けは、職員と一緒にいる、生協の配達も利用しながら支援しています。また、玄関前や交流施設食堂を利用し、普段と違う食事の雰囲気作りをしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に朝、昼、夕と摂取量や水分量の記録をしている。偏食にも気をつけ、まんべんなく召上がって頂くように声かけをしながら、できるかぎり召上がって頂くように支援しております。又栄養士や看護師から意見も聞きメニューを作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っていますが、本人の力に応じて、全介助、一部介助、見守り、声かけ等で行われております。また、今年度より希望者には歯科医師及び歯科衛生士の口腔ケアを受けて頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄リズム表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしております。パット使用者であっても時間をみてトイレ誘導、排泄を促しております。	ホームの方針として「メリハリ、運動、オムツ排除」をモットーとし、排泄については、パットを使用している方も時間を見計らい、トイレで排泄できるように支援しています。また、排泄リズム表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしています。「ケアのプロはオムツを外すのも仕事」と心得、出来る限り布パンツに代えるよう努めています。利用者の排泄の気配に常に注意し、トイレに座って排泄する機会を逃さないように対応しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を工夫したり、ラジオ体操や散歩等で運動も行なっております。また青汁など、ご本人に合った便秘予防を工夫しておこなっております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間はご希望に応じられない時もありますが、入浴を希望される入居者は曜日、時間に関係なく入浴できるように努力しております。	事業所の特色の一つは「温泉」です。原則2日おきに入力していますが、本人の希望があれば、毎日の入浴にも応じています。時間については、希望に応じられない時もありますが、入浴を希望する利用者は曜日、時間に関係なく入浴してもらっています。重度化の人にも対応できるようリフトも設備しています。温泉の湯質が合わない人には通常の水を沸かして対応することもでき、柔軟な対応で支援しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムをつかみ、様子の観察もおこない、休息や安眠できるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ファイルを作成しわかりやすくしており、一人ひとり把握するよう努めています。又誤薬に関しては、誤薬予防・より良い確認方法など、法人全体で意見交換をかさねておこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、遠足、花見祭りの参加等取り入れています。また適量の晩酌なども楽しまれています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気のいい日は必ず施設付近を散歩、探索して四季を楽しんでいます。また玄関先などでお弁当を頂くなど、非日常的な支援も進めています。	天気のいい日は必ず施設付近を散歩し、探索しながら四季を楽しんでもらっています。また、玄関先などで食事をしたり、駐車場やベランダを利用して、日光浴や体操をしたり、外気に当たりながら身体を動かすように支援しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にて管理させて頂いています。買い物などに同行いただき、歯磨き粉など、ご自身でレジにて支払いをしていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	イベントや外出などでの写真と一緒に手紙を添えて送らせて頂いています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールのカビ対策はこまめな換気で努力をしていますが、かび臭を消すまでにはなかなか至っていません。その他の共有スペースに関しては、季節を感じられる様、努力しています。	玄関ホールは広く、入って正面の大きな窓には四季折々の彩りある風景が広がり、薪暖炉を囲み、利用者が談話をしながら寛げる空間になっています。共用部分には、四季折々の花が飾られ、季節毎の作品や写真を掲示し、利用者が心地よく過ごせるよう工夫しています。リビングもそれぞれの相性に合わせてテーブルの向きを変えたり、個人別にその人に合った声かけをするなど配慮し、利用者が居心地良く過ごせるよう環境を整えています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にも、ソファを置きゆったりとした空間の中話しをしたりその方の気分に合わせて一人で自由に過ごせる場所を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や用品を持ち込んでいただいています。また転倒など安全にも配慮しています。	居室は余裕あるつくりで、本人の使い慣れた家具や用品が持ち込まれ、自由に生活に必要な物が置かれ、本人が居心地よく過ごせるように配慮されています。ベッドは原則持ち込みですが、必要に応じて貸出対応も行っています。また、転倒など安全にも配慮しています。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のありのままを受け入れ入居者自身が有する能力を發揮して一人ひとりが主体的に暮らせるようにしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

作成日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。